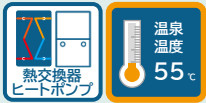




箱根大平台温泉組合

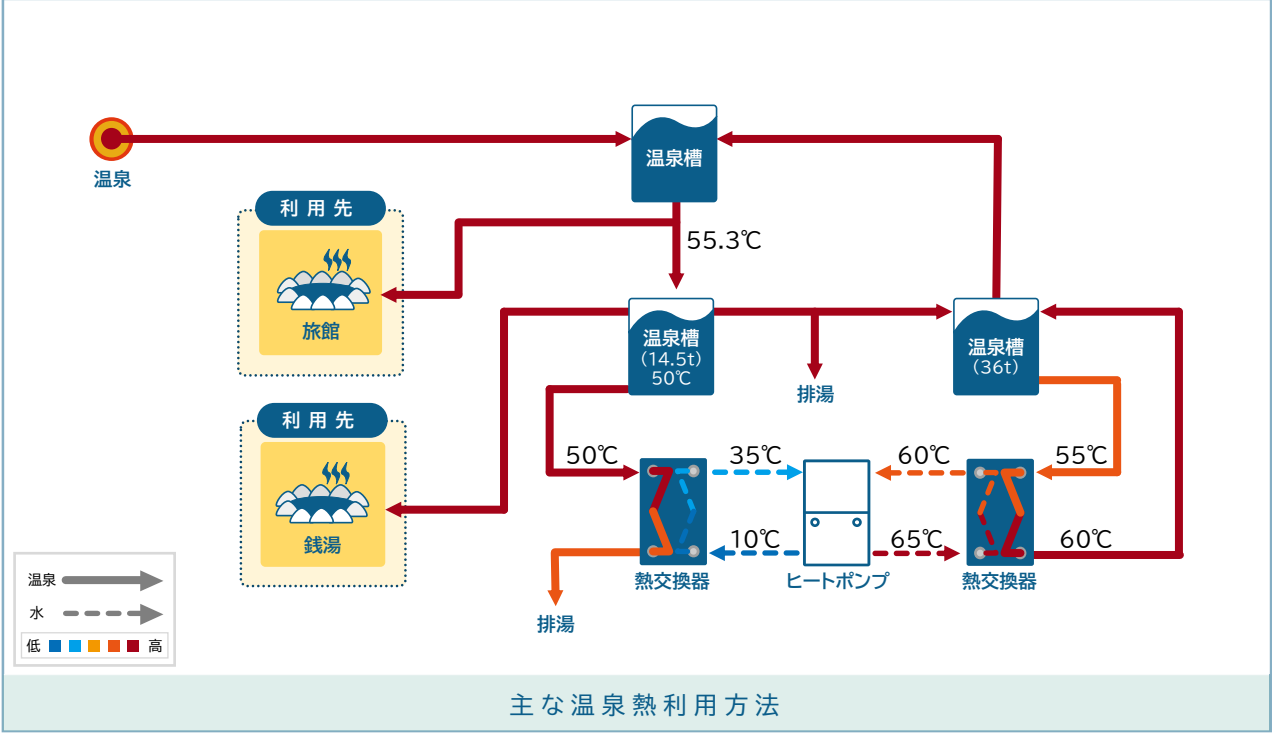


概要

余っている温泉をタンクに貯留し、朝・夕2回、温泉槽(配湯用)へ返送し、その後、温泉槽(配湯用)から周辺施設へ配湯している。
なお冬季(12月～4月)は温泉温度が下がるため、ヒートポンプ給湯機を深夜電力の時間帯に稼働させ、温泉槽の温泉を昇温(60℃)し返送している。

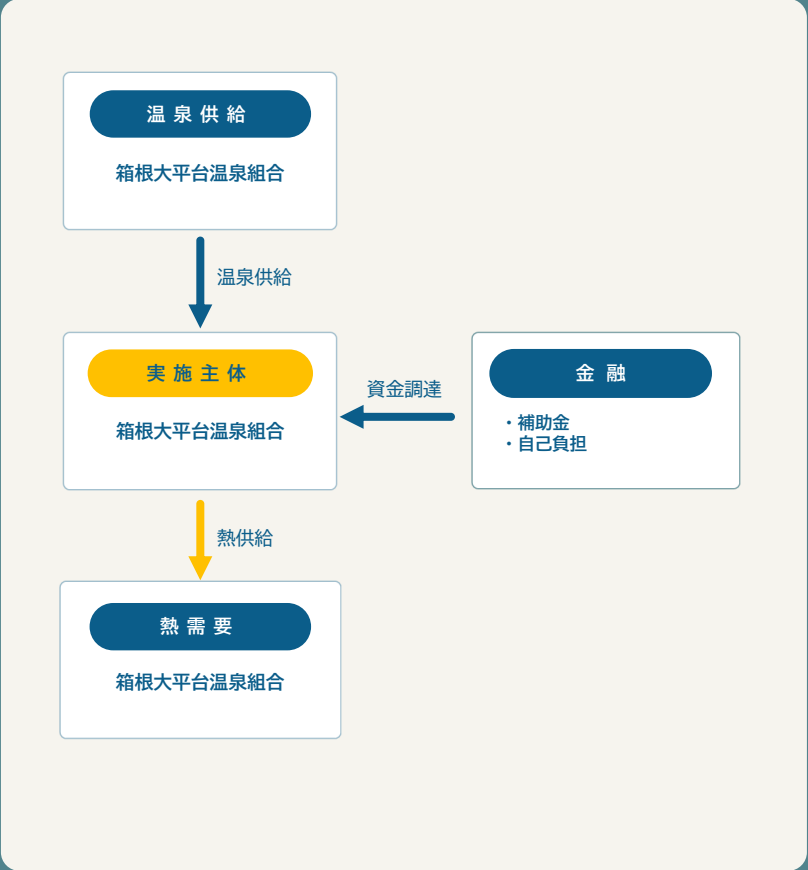


泉質	塩化物泉	CO ₂ 排出量削減効果	ランニングコスト削減効果
熱利用温度	50℃	37 t-CO ₂ /年相当削減※1	81%削減※1
利用温泉	既存温泉		
総事業費	3,000万円(一部補助金あり)		



※ 本事例は「平成29年度・30年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※ 1:CO₂排出量削減効果、ランニングコスト削減効果は、ヒアリング先による推定値です。

実施体制



事業検討の流れ

